

公表

事業所における自己評価結果(児童発達支援)

事業所名		発達支援施設 はじめの一步須恵事業所				公表日	2026年 3月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	・ 集団療育と個別療育がなるべく重ならないように、受け入れ時間を調整している。 ・ 集団、個別療育が同時に行われていてもそれぞれ別の部屋で行う事ができている。	・ 個別療育から集団療育へ移行が可能であれば、児の様子も考慮しながら検討する。 ・ 療育と個別の時間が重なった時に使いたいときに使えない時があるため、可能であれば時間をずらして行いたい。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	・ 人員配置基準を満たしており、日々の利用人数に合わせて適切に配置している。 ・ 年中以下の子ども達に対してはやや多めの人員配置がされている。 ・ 配慮が必要な子がいる時は多めにスタッフを配置している。	・ 専門職(言語聴覚士など)のニーズも高い為、採用を含めて検討する。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	0	・ 室内はこどもへの刺激を少なくするため、壁面などはシンプルにするよう心がけている。 ・ 階段には手すりが設置されている。弱視のお子さんへの対応として階段に目印のテープを取り付けている。 ・ 角になる部分には保護シートを付けている。療育へやには段差はない。(身体障害者の対象は該当しない) ・ ケガに繋がる場所への改修を行っている。	・ 段差解消などのバリアフリー化はなされていない。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	・ 清掃・消毒を毎日欠かさず行っている。 ・ 1Fプレイルームはフローリングで運動を中心に使用、2Fはカーペットで主に机上活動で使用している。 ・ 活動によって机や物の配置を変え、スムーズに活動に取り組めるよう空間作りをしている。	親子行事など、活動人数が多い場合には空調がききにくい。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	クールダウンが必要な場合は、相談室を利用している。	次年度も継続。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6	1	常勤・非常勤を含めた職員会議を定期的に行い、意識の統一を図っている。	次年度も継続。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	・ 年に1度、保護者向け評価表のご協力をいただき、集計後の会議にて業務改善に向けての意見を出し合っている。それらを具体的な改善につなげ、保護者に対しても真摯に返答を行っている。	次年度も継続。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	・ 常勤・非常勤を含めた職員会議を定期的に行っている。 ・ ミーティングでの意見交換や定期的に管理者との面談が設けられて各々の意見がくみ上げられている。	次年度も継続。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	6	法人内の他事業所職員より、第三者による内部視察を実施している。	専門機関による第三者評価は実施していない。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	・ 法人全体の研修及び事業所内研修、希望者に対する個人研修が随時案内、実施され、受講している。また、常勤職員は継続的に支援に対する研修を受講している。	人員の問題があり、平日に受けたい研修があっても受けられない場合がある。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	・ 作成し、ホームページにて公開している。 ・ 事業所内には年間カリキュラムが掲示しており、保護者には月ごとにお便りでお知らせをしている。	ホームページにて公開はしているが、どれほどの方が閲覧し、プログラムについて把握してくださっているかは不明。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7	0	評価ツールを使用・職員間での会議にてアセスメントを行い、計画を作成している。	次年度も継続。		

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	児童発達支援管理責任者以外の職員からも意見を聞き取り、多角的な視点から意見を出し合うようにしている。	次年度も継続。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	・朝礼や終礼、会議の場にて、計画書の内容について共有を行っている。	次年度も継続。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0	全職員が閲覧可能なアセスメントツールを使用しており、各児のカルテにも綴って確認できるようにしている。	次年度も継続。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	・ガイドラインに沿って計画書を作成している。 ・本人支援は5領域に分けて、具体的な支援方法を記載している。	「移行支援」、「地域移行・地域連携」については、これから先更に強化していく必要がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	・年間計画を職員周知し、それをもとに日々のプログラム立案をチームで行っている。 ・その日の療育リーダーが立案し、打ち合わせ時にチームで話し合いをしながら進めている。	次年度も継続。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	・年間計画→月間計画→日案と細分化することで、活動内容が固定化しないように努めている。	戸外活動も多く取り入れていけると良い。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	・その日の状況を鑑みて、個別活動後に集団活動を行うといった、一人ひとりに合わせた支援を行っている。	次年度も継続。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	・支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っている。	次年度も継続。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	・活動終了後に振り返りを行い、気付いた点や改善点を共有し、次回の療育に生かしている。	次年度も継続。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	ケース記録を記載し、内容を振り返りながら次回の支援内容を検討している。	次年度も継続。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	半期に一度実施している。	次年度も継続。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	管理者および児童発達支援管理責任者が出席している。	担当者も含めて出席出来るように体制を整える。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0	送迎の際に園での様子や療育での様子について共有している。また、必要に応じて園と関係機関連携会議を開催している。	保険・医療機関との連携を密にしていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	0	常にステップアップを目標に、療育の必要性を加味したうえで移行について検討している。必要に応じて園と関係機関連携会議を開催している。	次年度も継続。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	2	・就学時における関係機関の会議に出席している。また、法人内の放デイ以降の際に、事前会議を実施している。 ・教育委員会や学校からの依頼を受けて、書面で情報提供を行っている。	次年度も継続。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	(31は、事業所のみ回答)				・必要に応じて児童発達支援センターとのやり取りを行っている。	

	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	5		・4月より同法人内に児童発達支援センターが開所するなので、今後は連携や助言を受けながら運営していく予定にしている。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	5	・野外活動で公園に行った際に地域の子どもたちと一緒に遊ぶ機会がある。	同法人の園も含め、今後検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6	0	LINEや面談にて状況報告や、ご相談への対応を行っている。	直接お話し出来る機会をさらに増やせると良い。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	7		・保護者への情報提供を十分に行っていく。 ・個々の相談には応じているが、事業所では継続した家族支援プログラムができていないので、県や地域が行っている事業を紹介していく。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時への説明と事業所内掲示にて周知を図っている。	次年度も継続。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0	・保護者ニーズについて、事前に聞き取りを行っている。 ・利用児が幼児であるため、保護者様の意向を伺い、お子さんの見立てをして立案している。	児童発達支援という事もあり、児に対する意向聴取が困難な場合が多い。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7	0	可能な限り面談にて説明している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	電話やLINEにてその都度相談に対応している。必要に応じて会議の場を設けている。	次年度も継続。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	5	親子イベントを設定し、保護者同士やきょうだい児がコミュニケーションを取れる場を提供している。	保護者会は実施したことがないため、今後検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	管理者および児童発達支援管理責任者に報告する体制を統一している。	次年度も継続。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	一カ月に一度お便りを発行している。また、SNSにて活動について報告している。	次年度も継続。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	・掲載写真や情報提供書などは、ダブルチェックを徹底している。 ・SNSでの公開時は名前や顔を隠すなどしている。個人ファイル保管の棚の扉には施錠ができるようにしている。	次年度も継続。
43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	・視覚支援を利用している。		
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	5	高齢者施設への訪問し、地域の方との交流を深めている。	行事に招待する事は出来ていない為、今後検討する。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	0	年に3回以上避難訓練を実施し、様子をSNSに掲載している。	次年度も継続。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	0	・BCPを策定し、年に1回以上見直しを行っている。 ・定期的に避難訓練を行い備蓄の確認を行っている	次年度も継続。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	・利用開始前にアレルギーについての聞き取りを行い、情報を職員間で共有している。	次年度も継続。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づき対応がされているか。	1	6	・可能であれば指示書のコピーをいただき、対応している。	次年度も継続。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	2	・自然災害や感染症、熱中症等のマニュアルを策定し、定期的に見直しと共有を行っている。	次年度も継続。

対応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	0	3		保護者への周知が十分ではないため、今後強化していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	小さなことでもヒヤリハット事案として挙げ、一步内の他事業所とも共有しながら再発防止に努めている。	次年度も継続。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	年2回以上の虐待防止研修を行っている。 ・法人内研修で年2回、事業所内で随時行われている。	次年度も継続。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	2	契約の際に身体拘束について保護者説明を行っている。	次年度も継続。